



2022年度

令和4年度

キーワードは「チェンジ」



校長 小川 政博

この4月に着任し早半年。生徒たちはいつも気持ちの良い態度で接してくれました。戸田会長を筆頭としたPの皆様、社会経験豊富な学校評議員の面々、さらには地域の方々の対応はとても温かいものです。足早に過ぎていく毎日の中に、心癒やされる瞬間を幾度となく感じてきました。

ところで、令和4年度始まりにあたり、生徒たちへ送ったメッセージは次のような内容でした。

（1年生へ向けて）

「校長として、次の二つを重視しています。一つ目は、論語の「義を見て為さざるは有なきなり」：目の前に困っている人を見かけたら、見て見ぬふりをせず、手を差し伸べる人ができる人になってください。」

二つ目は、他者のアイデンティティを理解し、尊重できる人であって欲しい。そのためには、自己のアイデンティティを深めるための教養が必要。だからこそ「日々の授業」が大切です。

：皆さんには、これから先十年後、二十年後を思い描きながら、広い視点を持って課題を発見し、果敢に挑戦して欲しいと思います。」
（2、3年生に向けて）

「今、この場に居られることは、陰日向からの、様々な支えがあればこそと、考えて欲しいと思っています。『お陰様で』という言葉を聞いたことがあるはず。感謝の気持ちを持つと、心が優しくなれるものです。」

：今年も、様々な新しい対応が求められるはず。『自分はこうだ』に固執せず、色々と受け入れてみましょう。『想定していなかったこと』にも、冷静に対応しましょう。」

このように、前段では「不易」な思いを、後段では「流行」の願いを述べたわけですが、特に先が見通しにくい新時代の到来を思い、「挑戦」や「変化」の言葉に重みが増す傾向を感じているところです。

そこで本校では、次の4つのミッションを今年度の重点とし、新たな一歩を踏み出しました。

1 新学習指導要領への転換
：ICTをマストアイテムとする

2 地域と学校との連携・協働
：授業改善等

3 安全安心な学校づくり
：地学協働・探究学習推進等
：ダイバーシティ教育

4 働き方改革
：（共生、人権・多様性の尊重）等
：教職員が健康でいきいきと集中して

生徒と向き合う環境作り
この4つの重点を教職員と生徒、保護者、地域の多様な主体が共有することが大切です。生徒の充実度を高め、学校の魅力を引き出し、本校の社会的役割を一層果たしていくために。白老東高校は今年度、「チェンジ」を意識する中で、学校の機能強化を図っていきます。

これからも、生徒、保護者、地域の皆様方の本校教育への御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

着任者紹介

- ① 名前 ② 教科名 ③ 前任校
④ 教員経験 ⑤ 分掌・部活動名
⑥ 趣味 ⑦ 挨拶

① 小川 政博



② 地歴公民 ③ 北海道清里高等学校
④ 32年目
⑤ ジョギング、韓流ドラマ
⑥ 生徒の皆さんには、互いの個性を認め合い、自分の良さや可能性を伸ばしながら、キラキラと輝いていて欲しいと思っています。皆さんひとり一人を大切に思っています。保護者、地域その他関係の皆様方には、白老東生の最も心強い応援団として、御理解と御支援をよろしくお願い申し上げます。

① 斉藤 裕幸



② 理科
③ 北海道深川東高等学校
④ 31年目
⑤ 生徒指導部・サッカー部
⑥ そのときに夢中になったこと。
（深くのめり込みます）
⑦ 生徒の心に残る教育が、何か一つできれば幸いです。

① 宮川 重徳



② 商業
③ 北海道苫小牧総合経済高等学校
④ 40年目 ⑤ 教務部・バドミントン部
⑥ カラオケ、卓球
⑦ 今までの経験を活かし、本校のために頑張りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

① 矢田 博之



② 事務 ③ 北海道札幌北高等学校
④ 事務職員21年目
⑤ 事務局長
⑥ BBQ、アウトドア
⑦ 事務員1年生ですが、本校のために頑張りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

PTA会長挨拶



PTA会長
戸田 克利

本年度PTA会長を務めます
戸田克利と申します。
まずは、この度のコロナ禍の中、教職員の先生方には感染拡大防止の為、様々な対策をして頂き保護者を代表し深く感謝を致しております。

このコロナ禍で、学校行事も大きく変わったと聞いております。しかし、このような時期だからこそ、生徒、学校、保護者が一つとなり、協力し合って新しい方向性に進むこともできると考えます。PTA役員一同、保護者の皆様のご協力ご理解を頂き、また先生方のお力をお借りしながら生徒達が安心・安全に、そして、いつまでも心に残るような思い出を作ることが出来る高校生活を過ごせるような環境作りを心掛けていきたいと考えております。
一年間どうぞよろしくお願い致します。

入学式



【敬称略】

令和4年度 PTA役員・委員会名簿

会長 戸田 克利
副会長 中村 祐志

監査 齊藤 隆興
樋江井瞳美

生活委員会 神野奈緒子
大島 光代
林崎 奈緒

広報委員会 菊地美恵子
菅田真由美
樋江井瞳美
松田 法子
本間 恵子
佐藤香名子
佐藤カオリ

研修委員会 林 幸恵
野村由希子
船越 真梨
坂本佑加子
村岡加代子

三上由美子
伊藤 加奈
渡辺 玲子

よろしくお願い致します！

1 学年 陣屋探究



仙台藩白老元陣屋資料館



陣屋探究を終えて

1年A組 佐藤 颯音

僕は、今回の仙台藩白老元陣屋について学習し、感じたことや学んだことがたくさんありました。まず一つ目は、陣屋資料館の資料についてです。資料館には、たくさんさんの絵図や資料があり、その中には当時使われていたものなどがあることに大変驚きました。二つ目は、陣屋が作られた理由です。一六〇年前に江戸幕府がロシアなどから北海道を守るために陣屋を作らせました。陣屋が作られなければ、今の北海道は違っていたのではないかと思いました。

僕が調べて分かったことは、仙台藩とアイヌ民族との関係についてです。仙台藩の殿様は、アイヌの人を粗末に扱うなと命令しました。その理由は、仙台とは違い、気温が低い北海道で生活していくために、アイヌの人たちの知恵や労働力が必要だったためです。仙台藩は、働いたものにしっかりと給料や酒を渡して、平等な取り引きを行っていたことにも驚きました。

最後に陣屋探究を終えて、陣屋資料館や陣屋跡を見学し、陣屋が作られた理由やアイヌ民族との関係などについて、全く知らなかったことをたくさん学ぶことができて大変勉強になりました。機会があれば、もっと調べてみたいと思いました。

陣屋探究について

1年B組 宮本 雪叶

私は今回、陣屋探究を終えて学んだことは三つあります。

一つ目は、事前にある程度学習しておくことが大切だと言うことです。私たちは事前学習のビデオなどで学習していました。実際に元陣屋資料館のガイドさんから説明してもらおうと、事前の知識が土台となり、よりたくさんさんの情報が得られました。

二つ目は相手に伝わりやすく説明することの大切さです。自分たちのテーマにそって原稿を作ったり、ポスターを作成しました。ポスター作成では、見る人のことを考えて文字ばかりにしないことが大切です。発表原稿を考えるときは、あまり難しい言葉を使用せずに分かりやすい言葉に変換することを心がけました。

三つ目は、お互いに発表を聞きあうことによって良いところを取り入れることができるということです。他のグループの発表を聞いて、ポスターを見てみると相手が何を伝えたいのかがよく分かります。他グループの発表も非常に参考になりました。今後に生かしていきたいです。

白老東高等学校祭



21
位位
21
IIB

パレード部門

21
位位
31
IAA

山車部門

21
位位
32
IAA

クラスパフォーマンス部門

準優勝
優勝
32
IAA

総合

学校祭結果発表

Vision

2年A組 村岡 彩香

「今から優勝しちゃってどうするんですか! (笑い)」

そんな担任の先生の言葉に、教室内が一瞬にして笑顔に包まれた。

2年A組の学校祭のクラステーマは「game」だ。三つの部門に分かれて、リーダーを中心に協力して作業した。小道具とシナリオの作成、撮影、動画の編集をし、見事優勝したパフォーマン部門。色塗り、組み立てを丁寧にし、パレードで準優勝した山車部門。店の装飾、作り方の手順確認をしっかりと行うことができた「缶バッジ作り」の模擬店。

これら三つの部門で、ある共通する英単語がある。それは2年A組の学級通信の題名になっている「Vision」だ。「見通す」や「構想」といった意味を持つ。どの部門も先のことをしっかりと「見通し」、積極的に活動できていた。また、山車の「構想」を練り、真剣に取り組んでいた。山車の塗装中、

ペンキを床にこぼしてしまい掃除に苦労したり、時には作業が思い通りに行かなかったことがあったが、それらの苦労や困難を乗り越えたからこそ各部門で入賞し、なんと言っても最高峰である総合優勝を成し遂げることができた。

最後に、これらの活動から昨年に比べて物事に対して自ら積極的に取り組む姿勢が多く見られたと思う。準備から本番を含め、みんな本当にお疲れ様でした。来年はもっといい催し物を作り上げ、最高の学校祭にしましょう。

三年ぶりの学校祭

3年B組 干上 莉加

今年の学校祭は、コロナの影響で行えなかった山車パレードを三年振りに行いました。他にもクラスパフォーマンス、模擬店、茶道部のお点前披露もこの二日間で行うことができました。

一日目は吹奏楽局の演奏と放送局による映像で開始しました。学校全体が学祭ムードになった

ところで、クラスパフォーマンスの鑑賞を行いました。映像でのパフォーマンスというのを活かして、ゲームの世界を表現したり、MV風に作成したクラスもあり、楽しいだけでなくクラスの個性が出たパフォーマンスでした。

次はグラウンドにて山車パレードを行いました。山車はミニサイズでしたが、その分パレードでは各クラスの山車の見せ方や踊りや小道具といった多くの工夫が見られ、盛り上がりました。

二日目は各クラスの模擬店、生徒会や茶道部、先生からの出店もありました。今年も新型コロナウイルスの影響で飲食物の模擬店はできませんでしたが、体験型の模擬店でお菓子を景品にするなど、各クラスで工夫を凝らしていました。さらに、今年はジョーズキッチンさんの協力もあり、キッチンカーを出店していただきました。商品のハンバーガーは多くの生徒が買いに行き、すぐに完売だったということでした。コロナ禍に入ってから学校祭で一番の盛り上がりだったのではない

かと思います。三年生は最後の学校祭で去年よりも規模の大きな学校祭ができ、とても盛り上がりました。

私が入学する前からコロナが流行していたため、学校祭は延期や規模の縮小など、制限のある中で行われていました。そのため、思うように楽しめなかったり、不安も多々ありましたが、今年の学校祭は町内で営業しているお店からキッチンカーの出店があったり、初めてで最後の山車作り、パレードもでき三年間の中で一番の盛り上がりでした。来年、私たちはもういませんが、全校生徒や新たに入学してくる一年生とともに、今年以上に工夫をして、たくさんさんの賑やかな声が聞こえる学校祭になることを願っています。特に生徒会のみんな、コロナに負けず頑張ってください。



高体連・高野連・高文連 結果報告

○バドミントン部

・令和4年度 第74回北海道高等学校体育連盟室蘭支部
バドミントン選手権大会 (5/26・27)
女子シングルス 大島 初戦敗退
男子シングルス 秋山 初戦敗退

○野球部

■令和4年度第61回春季北海道高等学校野球大会室蘭支部予選大会
(とましんスタジアム)
【Aブロック】2回戦
白老東・苫西・えりも・富川・室工 0-7 ○苫小牧中央
■令和4年度第104回全国高等学校野球選手権大会
南北北海道大会室蘭支部予選 (とましんスタジアム)
【Cブロック】1回戦
白老東・苫西・えりも・富川 7-20 ○浦河

○硬式テニス部

ダブルス 山本・石本組 2回戦敗退
シングルス 山本 大智 2回戦敗退
石本 哲大 1回戦敗退

○バスケットボール部

●男子バスケットボール部 高体連試合結果
1回戦敗退 白老東 65-75 苫小牧東
●女子バスケットボール部 高体連試合結果
1回戦敗退 白老東 15-150 苫小牧中央

○サッカー部

・高等学校総合体育大会サッカー競技北海道予選大会室蘭支部予選大会
2回戦 VS伊達緑ヶ丘・室蘭工業 2-0
3回戦 VS大谷室蘭 0-8

○放送局

・令和4年度 NHK杯放送コンテスト苫小牧地区大会
(会場：苫小牧文化会館) 5/20 (金) 朗読部門 5名出場



苫小牧市文化会館

最後の大会を終えて

野球部 鎌田 朔太郎

私の三年間の野球は、一年生の夏の大会から始まりました。私は小学生の頃から野球を続けていました。高校入学後は「勉強して大学へ進学する」という目標があったので、野球は続けないつもりでしたが、先輩や顧問の辻先生から熱心に勧誘されたこともあり、見学で久しぶりにボールに触れたことで「また野球をやりたい」と思うようになりました。

大会が始まる一日前に入部しましたが、経験者ということで最初からスタメンで出場することとなりました。私が属するチームは人数が少ないため他校との合同チームとなります。

それでも出場するからには、と必死で練習をしました。多くの試合ではすぐに負けてしまうことがありましたが、いくつかの試合では練習の成果を出すことができましたと思います。

冬になると練習の内容は筋トレが中心となります。校内走とウエイトトレーニングが大変きつく感じられましたが、徐々に体が大きくなり筋肉が増していくのが楽しくなり、重量を増やしては続けました。春になり合同チームの先輩に会ったところ、先日より体が大きくなっていく姿を見て、自分も負けていけないと思いました。その先輩たちとの最後の試合では絶対に負けたくはないと思いましたが、残念ながら敗退してしまい非常に悔しい思いをしました。

本校では一人だけの部員となり三年生としての一年がスタートしました。チームを支えていく四番に抜擢された春の大会では、思うように練習が出来ず練習試

合も十分ではない中出場しました。中央高校の、ファールするのが精一杯というピッチャーが相手でした。

その選手はプロからも注目されるほどで、打てない悔しさと初めて一五〇キロのボールを投げるピッチャーを相手にした楽しさを感じました。

いよいよ最後となる夏の大会を迎え、その最後となる試合ではヒットを放った上得点することができ、これまで頑張ってきた成果を出すことができたと思います。高校生として最後の試合なこともあり、大変記憶に残る試合となりました。

私の三年間は常に人数が足らず、他校と合同でチームを作らなければならぬ状況でした。しかし、だからこそ多くの球児が経験できなかったことを経験できた三年間であったとも思います。普段顔を合わせない人たちとコミュニケーションを取り続けたこの経験を、今後の人生に是非生かしていきたいと思います。

編集後記

おとなしくなったかと思えば別の形で暴れ出すコロナウイルス。なかなか終息を迎えない中で、我々の方々がうまく立ち回れるようになった結果、今年度は久々に前期に行われるべき行事をこなすことができました。勿論規模も期間もひとところよりは縮小されていますが、思うようにいかなかったここ数年を考えると感慨深いものがあります。特に3年生は入学時よりマスクを手放すことの出来なかった不自由な学校生活だったのでひとしおではないでしょうか。このまま後期も順調に進めばよいと思います。